

井原市公共交通会議（令和4年度第6回）議事録

と き 令和5年3月20日（月）  
15：00～16：30

ところ 井原市役所4階大会議室

1. 開 会

会議の成立を報告

- ・ 出席者 委員25名中23名（代理出席1名）

2. 大舌会長あいさつ

- ・ 委員の異動について報告
- ・ 異動委員あいさつ

3. 協 議

1) 運行見直し基準に基づく路線・ダイヤの見直しについて

- ・ 事務局より資料1を用いて説明

(会長) 利用実績から縮小の見直しに該当する路線について、運行見直し基準の運用フロー図に基づき本年10月に再度協議をするということによいか。

(事務局) そのとおりである。

質疑・意見等なし

【協議事項承認】

2) 自家用有償旅客運送（芳井・美星）の変更（案）について

- ・ 事務局より資料2を用いて説明

(会長) 毎年この時期に定例的に協議している内容である。スクールバスを兼ねている自家用有償旅客運送（芳井・美星）の変更案についてご質問等はないか。

(委員) 児童のために三原小学校まで運行することはとても良いと思う。資料には下校時間のみ記載してあるが登校時間はどうなるのか。

(事務局) 共和方面の登校便については路線バスで対応しているため、時刻表では記載していない。

(会長) 原案のとおり承認してよいか。

【協議事項承認】

#### 4. 報 告

##### 1) 路線バス（矢掛～美星産直プラザ線）のダイヤ変更について

- ・ 事務局より資料3を用いて説明

質疑・意見等なし

##### 2) 地域公共交通計画の実施状況について

- ・ 事務局より資料4を用いて説明

(会長) 数値目標と取組状況の説明についてご質問等はないか。

(委員) 井原鉄道から提案したい。本年4月18日に平櫛田中美術館がリニューアルオープンすることから、田中美術館の入場券と井原鉄道の乗り放題切符をセットにした企画乗車券販売の準備を進めている。市で制作した田中美術館のウェブサイトを見ると、井原駅から美術館まで徒歩15分と記載しているが、子供連れや歩くのが不自由な高齢者が田中美術館までの距離を歩くには厳しいと思われる。井原あいあいバスは田中美術館の前を経由する路線があり、北振バスでも駅前通りで降車すると徒歩5分程度で田中美術館へ行けるようになっている。井原鉄道は本年3月にダイヤ改正を行ったが、下り12時16分着と上り12時18分着の井原鉄道はバスとの接続が悪く、1時間程度待たなければならないものの、基本的には井原駅の上下線とも到着時刻から大体5～15分の待ち合わせでバスに接続ができており、長い距離を歩かずに美術館まで行ける。市外の観光客の公共交通利用を増やすためにも、バスと鉄道の接続について時刻表を市で作成してウェブサイト等を通じて紹介してはどうだろうか。今月には桜まつりも開催されるが、ウェブサイトを見ると4月2日は井原駅から10分間隔でシャトルバスが運行しており、それ以外の日は公共交通機関の利用をお願いしているだけである。例えば井笠バスカンパニーの路線バスで井原バスセンターまで行き、井原あいあいバスで図書館まで行けば会場まで近いことを発信してはどうか。結果的に市観光客や公共交通利用者数が増え、「井原市は公共交通が充実している」という印象を持ってもらえると考えている。

(事務局) 貴重な提案に感謝したい。確かに徒歩15分は、あまり親切とは言えない案内であった。井原あいあいバスは井原線の各駅との連絡を考えたうえで時刻を設定しており、田中美術館のリニューアルオープンで市外から多くの観光客が来る機会も生まれるため、先程の提案にあった周知について関係課と連携して検討したい。

(会長) 観光部門の担当課も全ての公共交通の接続状況等を理解していないため、先程の提案にあった桜のシーズンに小田川や井原堤へ公共交通で行くための情報を整理してウェブサイトで発信してもらいたい。桜や田中美術館に限らず、観光客が見込めるイベントが開催される時には、公共交通の利用に繋がるPRをしていくことも重要だと思う。そのような啓発を含めて利用

促進を検討してほしい。

(委員) 基本目標3「公共交通の持続的な改善のための仕組みづくり」の評価指標にある説明会や意見交換会の開催回数について、年20回という実績は大変良かったと思う。これから高齢化が進んでいく中、説明された内容をすぐ忘れてしまう高齢者も多いため、継続的な説明会・意見交換会開催は必要である。令和5年度も継続して開催してほしい。

(会長) 各地区や団体等から開催希望があれば、積極的に意見交換会や出前講座を開催したいと思う。

(委員) 利用者数の実績を見ると非常に残念な結果になっている。今後、令和7年度の目標値を目指すにあたり、1人でも多くの人に乗ってもらうために努力をしていこうと、我々交通事業者も外部の力を借りるなどして施策を進めようとしている。計画の評価指標について、資料には実施したアンケートなどの母数が記載されていないこともあり、検証結果として妥当なのか疑問である。乗務員の接遇については指摘されることがあるが、半分近くの方が満足されている結果となっており、母数が10人と1,000人では結果の信憑性が大きく変わってくるため、今後見直しをお願いしたい。

(会長) 対応するアンケートの母数は分かるのか。

(事務局) アンケートは多くの方から回答をいただきたかったが、かわら版等で周知をしたものの有効回答数としては19件に留まっており、今後アンケート調査の方法について、来年度はより多くの方々から回答が集まるような方法を検討して実施していきたい。

(会長) バス利用者に対するアンケート回答者が19件ということか。

(事務局) お出かけの頻度の調査も含めて、交通結節点やバス車内でのアンケートの回収数が15件、公共交通かわら版等を通じたWebアンケートの回答数が4件であった。

(会長) しっかりと実態が反映できるような調査方法を考えてもらいたい。橋本委員からもご意見をお願いしたい。

(委員) 全体の数値指標である公共交通利用者数については実績値が29万7,000人で、参考値を見ると令和2年度から年々減少している。令和4年度はコロナ禍の影響が最も大きいと思われる時期も終わり、世間一般的には減少していた利用者数が戻ってきているタイミングだと思われる。コロナ禍の影響は大きいですが、外へ出なくても支障にならない生活が定着し、減少した利用者数が本当に戻るのか疑問に思えてきた。そのため今後は利用者数を回復させるような積極的な取組が必要で、例えば普段利用している人だけでなく観光客にも利用しやすい環境を整えるといったコロナ禍前に行っていた取組を進めていくべきである。また、アンケート調査も今までのやり方を変えて、調査に協力してもらえる人をグループ化して継続的に協力してもらう必要がある。他の調査との連動やスマートフォンからの回答も活用し、新しい段階に入って現状から1歩進み出るような取組をお願いしたい。

- (会長) 他に状況報告やご意見や要望等があればお願いしたい。
- (委員) 井笠バスカンパニーではグループ会社と共同で、3月に「贈る言葉ッス」という卒業を迎える皆様へのメッセージを書いたポスターをバスの車内に掲示する企画を行っている。市にも協力いただき井原・笠岡線のバス車内にもメッセージを掲示してあるが、バスに乗らないと見るができないため公共交通の利用促進に繋げていきたい。また、公共交通について「どうやって利用したらよいか分からない」という意見が挙がっており、乗り方が分かる映像を制作しウェブサイト等で公開する取組も予定している。GTFS データについても整備を進めており、このような活動を通じて利用促進を進めていきたい。乗務員の待遇についても皆様がより良く利用できるように努力していく。
- (委員) 日の丸タクシーでは、あいあいカーの運行を担当しているが、当初の計画よりも利用者数が少ないと感じている。乗務員の待遇や車両の清潔感を向上させながら利用していただけるように努力しなければならないが、利用者の多くが高齢者である中、他の公共交通と併用する際は結節点での接続が問題だと感じており改善が必要だと思われる。また、利用する年齢層が拡大しないと利用者数が大きく伸びないと感じている。
- (委員) 日の丸タクシーと同様に一丸タクシーでは、あいあいカーと芳井地区のスクールバスの運行に携わってきた。あいあいカーは1人での利用が多く、乗合の交通手段であるが地域によっては個別輸送に近い。9人ぐらいが乗車できるジャンボタクシーの用意もできるため、例えば誰かの用事に合わせて地域の人が利用して外出すれば、利用も増えて乗り合うことにより費用面も効率化が図れる。公共交通がより良いものにするためにも、公共交通会議で議論を続けてもらいたい。
- (委員) 井原交通はタクシー事業を始めて創業100年になるため、この伝統を守りながら乗って楽しいタクシーを目指して努力している。マスクの着用等、コロナ禍による規制も緩和され、人の動きが変わってきたため、現在は時間を延長して営業している。
- (委員) 北振バスの路線バスは、あいあいカーの運行により運行便数を減らしているが、乗務員の頑張りにより運行が継続できている。資料を見ると利用者1人当たりの市支出額は増加しており行政負担が増えているように見えるが、利便性が上がっているため、今後はこの基準を維持するのか、行政負担額を上げてでもサービスを向上させるのか、行政負担額を下げるために利用者に我慢してもらおうのか、コストパフォーマンスが見合った交通体系にしていくことが交通事業者から見ると大切な視点である。また、地域の生活の足を担保することが、公共交通事業において最も重要であるが、バスは通っているという安心感の提供も事業者の責任だと考えている。全国的にもバスの運転者は減少傾向で、高齢化も進んでおり50歳代以上の二種免許取得者数が60～70%近くを占めていることから、北振バスとしてもこ

れらに力を入れて柔軟に対応したい。資料の中で一番心を打たれたのは、三原からバスを利用する児童いることで、三原小学校も廃校になったこともあり地域の子供が増えたことは非常に喜ばしい。

(委員) 公共交通の関係者が揃っているため、我々の状況をお伝えしたい。私は井原市の老人クラブの会長をしているが、井原市では57クラブ3,200人の会員がいる。クラブでは健康づくりやフレイル予防としてバスを借りて外出する企画を行っているが、コロナ禍によってそのような企画がなくなっている。現在はクラブによっては徐々に新たな外出の企画が生まれているものの、全てのクラブの会長に情報が行き渡っていないため、交通事業者からも外出のプラン等を提案してほしい。また、以前は社会福祉協議会でボランティアによる輸送を行っていたが、現在廃止しているためサロンの外出企画を実施しにくくなった。高齢者の団体が外出する方法を考えていただきたい。

(会長) 団体での外出については今後提案いただきたい。また、あいあいカーは最大9人まで乗り合って利用できるため、外出の企画やイベントの際には是非あいあいカーを活用いただきたい。

(委員) 昨年度、美星地区で連合老人大会があり270人くらい出席した。井原地区からバスで行きたかったが予算の関係で実現できなかった。

(会長) イベントに公共交通がどのように関わることができるのか事務局でも提案してもらいたい。また、各団体で公共交通を活用したい際は事務局に相談いただきたい。

(委員) あいあいカーについては昨年の10月から本格運行しており、国庫補助金を利用しているため、公共交通計画の中で位置づけを明記する必要がある。現状の井原市の公共交通計画ではあいあいカーについては、国庫補助金を利用してフィーダー系統で運行する目的や必要性、そして数値目標の標準指標において対応できていない部分がある。恐らく次年度については、公共交通計画の一部見直しが必要になるため、その際には事務局と調整しながら会議の中で議論することもあると思われるので協力をお願いしたい。

(委員) 様々な自治体の公共交通の会議に出席しているが、井原市は利便性や効率性を踏まえて、あいあいカー等の乗合タクシーの事業にも取り組んでおり、先進的な自治体だと感じている。今回の資料の中で2点ほど改善した方が必要だと感じた点がある。1つ目は、バス利用者数の実績値について、定期券が1枚365日分の利用としてカウントされているため、通勤定期と通学定期を分けて分析してみると、違いが表れて今後の取組に生かせるのではないかと。2つ目は利用者へのアンケート調査についてだが、バスの中にアンケート用紙等を設置するだけでは回答に協力してもらうことは難しいと思う。例えば降車される時に直接利用者に調査票を渡し、時刻表にQRコードを付けて簡単に回答してもらえるように工夫しても良いかと思う。井原市は他の自治体に比べて、皆さんが積極的に会議で発言をされているため、

このような意見交換をより良い取組に繋げてraitたい。

(事務局) 次回の会議は、令和5年4月27日木曜日を予定している。

## 5. 閉 会

(委員) 様々なご意見をいただいたが今後は検証のための調査について工夫しながら取り組んでもraitたい。岡山県のパーソントリップ調査の速報値を見ると、65歳以上で運転免許を持っている人と持っていない人の外出率は20%近く離れている。この違いを埋めていくことが公共交通会議の重要な役割だと考えている。また、若い年齢層になると、運転免許の有無で外出率の差が20%を超えて離れているため、高齢者だけではなく若い年齢層も含めて考えていく必要がある。井原市の公共交通会議は大変有意義な会だと思うので、この結果を今後の取組に繋げてraitたい。

以上